

中学生の医薬品使用実態に関する調査研究 —医薬品教育プログラムの展開に向けて—

研究代表者 神戸大学大学院人間発達環境学研究科
博士課程後期課程 2年 堺 千紘
〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲 3-11
神戸大学大学院人間発達環境学研究科 川畑徹朗研究室
Tel : 078-803-7739

1. 調査研究の目的

風邪や頭痛といった軽度の身体不調の際に必要なに応じて適切に医薬品を使用することは、私たちの日常生活の一部であり、普段の生活で医薬品を使用している青少年は少なくない¹⁻³⁾。

しかし、医薬品を使用している青少年の中には、医療目的で医薬品を使用する場合であっても、説明書を読まなかったり、のむ時間やのむ量を守っていないなど、医薬品を適切に使用できていない者が少なくないことが国内外の研究により指摘されている²⁻⁵⁾。医薬品は、両刃の剣とよばれるように、その有効性の一方で、適切に使用しなければ身体に好ましくない影響を及ぼす可能性があるため、そういった不適切な医薬品使用による健康被害が懸念されている。そのため、自己判断で医薬品を使用する機会が多くなる思春期に、適切に医薬品を使用できるよう、医薬品に関する基本的な知識や適切な使用方法などについて教育することは重要だとする意見が少なくない。

このような背景の下、近年我が国においても青少年に対して医薬品の正しい使い方について指導することの重要性が認識されつつあり、新学習指導要領⁶⁾⁷⁾においても、中学校と高等学校の保健体育科で医薬品に関する学習内容の充実が図られた。

教育によって中・高校生の適切な医薬品使用行動を促進するためには、教育の対象となる中・高校生の医薬品使用にかかわる行動や態度の実態を把握し、実態に適した教育内容や指導法を検討する必要がある。

そこで本研究では、新学習指導要領において医薬品に関して学習することとなった中学校3年生および高等学校1年生を対象に、質問紙調査を実施し、彼らの医薬品使用にかかわる行動や態度の実態を明らかにすることを目的とした。

※一般用医薬品セルフメディケーション振興財団からは、中学生を対象とした調査について助成を受けたが、中学生の実態の特徴を検討するために、ここでは同時期に実施した高校生を対象とした調査結果と併せて紹介することとした。

2. 調査研究方法

2-1. 調査対象

調査対象学年は、新学習指導要領保健体育科において医薬品に関して学習することとなっている中学校3年生および高等学校1年生とした。調査対象校の選定に当たって、調査対象校の地域の偏りをできるだけ防ぐために、兵庫県の公立中学校および公立高等学校の学校一覧から系統抽出法によって学校を選定し、2011年7～9月の間に校長に文書で調査を依頼した。協力が得られなかった場合には、その学校と同じ地域にある他の学校に調査を依頼した。その結果、中学校5校、高等学校7校が選定された。なお、同様の調査を茨城県の公立中学校1校でも実施し、その結果が兵庫県の公立中学校と同様であったため、本研究の分析に含めた。その結果、本研究の調査対象者は、兵庫県の公立中学校5校と茨城県の公立中学校1校の計398名と、兵庫県の公立高等学校7校の1,416名となった。表1には、中学校および高等学校の調査実施当日の欠席者数、無効回答者数、有効回答数を示した。なお、有効回答の男女の内訳は、中学男子187名、中学女子189名、高校男子788名、高校女子957名であった。

2-2. データ収集

2011年9月に調査票を調査対象校に郵送し、2011年9月および10月に調査を実施した。調査は、調査対象クラスの学級担任に依頼した。調査実施方法の統一を図るために調査実施者用手引書を作成し、生徒への説明や指示を具体的に記して、指示内容以外の説明を行わないように求めた。

また、できるだけ正確な回答を得るために、回答した内容についての秘密の保持に配慮した。第一に、調査は自記入式の無記名調査とした。第二に、記入後はあらかじめ各人に配付した封筒に記入済みの調査票を入れ、封をさせた。第三に、調査中は机間巡視をしないように調査実施担当教師に求めた。さらに、調査実施に先立ち、答えたくない質問には答えなくてもかまわないこと、回答の秘密は保持されることを、学級担任が口頭で生徒に伝えた。

また、生徒のプライバシーに配慮し、生徒自身の健康状態や、慢性疾患等でのむことが決められている医薬品の服薬状況に関する質問は含めないこととした。

2-3. 調査項目

調査時点における中学校学習指導要領⁸⁾においては医薬品に関する記述はなく、中学校においては医薬品に関する指導は行われていないものと考えられた。そこで、本研究では、調査対象の中学校3年生は一般用医薬品と医療用医薬品の区別や、医薬品とサプリメントなどの健康食品との区別が困難であると考え、一般用医薬品と医療用医薬品の区別はせず、栄養補給を目的とする医薬品は調査対象に含めないこととした。さらに、回答の混乱を避けるため、医薬品の中でも内服薬（のみ薬）に限定した。これらのこと

を踏まえ、本研究では、医薬品を「以下の質問の『医薬品』とは、どこか痛い、熱があるなど、からだの具合が悪いときにのむ品のことです。ぜんそくやアトピーなどの医薬品で、ふだんのむことが決められている医薬品はふくみません」と定義し、調査票に記した。

1) 過去1か月間の医薬品使用経験

過去1か月間の医薬品使用経験については、「あなたは、この1か月間に、どのようなときに医薬品をのみましたか」という質問に対して、1. かぜ（せき、鼻水、熱）、2. 頭痛、3. 乗り物酔い、4. 生理痛、5. 腹痛・お腹の具合が悪い（げり・便秘など）、6. その他、7. 医薬品はのんでいない、の中から当てはまるもの全てを選択してもらった。なお、先行研究では医薬品の種類別（鎮痛薬、整腸薬など）に使用経験をたずねているものが多かったが、生徒の中にはそういった医薬品の種類に関する知識が不十分な者もいると考え、本研究では症状別に質問することとした。

2) かぜ薬および痛み止め薬の使用頻度

医薬品の使用頻度については、中・高校生の使用率が比較的高い医薬品であるかぜ薬（せき、鼻水、熱などのときにのむ医薬品）と痛み止め薬（頭痛、生理痛などのときにのむ医薬品）について、ふだんの使用頻度をそれぞれたずね、6件法（1. ほとんど毎日、2. 1週間に1回以上、3. 1か月間に1～3回、4. 6か月間に2～3回、5. 1年間に2～3回、6. ほとんどのまない）で回答を求めた。

3) 自己判断での医薬品使用経験

大人に相談しないで自分で医薬品を使用した経験（自己判断での医薬品使用）に関して、保護者（親など）や学校の先生（担任、保健室の先生など）に相談しないで、自分で医薬品をのんだ経験および自分で買った経験、友人から医薬品をもらった経験および友人に医薬品をあげた経験の有無について質問し、2件法（1. ある、2. ない）で回答を求めた。

4) 医薬品を使用する際の注意事項を守ることに関する行動および態度

医薬品を使用する際の注意事項に関しては、新学習指導要領⁶⁾⁷⁾、高等学校保健体育科の教科書⁹⁾¹⁰⁾、財団法人日本学校保健会の医薬品教育の資料¹¹⁾¹²⁾を参考に、①注意書き（説明書）を読む、②服用時間を守る、③服用量を守る、の3項目を選定した。そして、各注意事項を実際にどの程度守っているか（行動）、またそれらを守ることにについてどう思うか（態度）をたずねた。「行動」については、1. いつも守っている（または1. いつも読んでいる）、2. だいたい守っている（または2. だいたい読んでいる）、3. あまり守っていない（または3. あまり読んでいない）、4. 全く守っていない（ま

たは4. 全く読んでいない) で、「態度」については、1. とても大切だと思う, 2. 大切だと思う, 3. あまり大切だと思わない, 4. 全く大切だと思わない, の4件法で回答を求めた.

5) 医薬品を使用する際の相談相手

医薬品を使用する際の相談相手に関して、「あなたは、医薬品をのむとき、誰に相談することが多いですか」という質問に対して、(1. 保護者, 2. きょうだい, 3. 友人, 4. 専門家(医師, 歯科医師, 薬剤師など), 5. 学校の先生(担任, 保健室の先生など), 6. その他)の中から当てはまるもの全てを選択してもらった.

6) 医薬品に関して信頼できると思う情報源

医薬品に関して信頼できると思う情報源について、「医薬品に関する情報を集める場合、あなたが信頼がおけると思う情報源はどれですか」という質問に対して、1. テレビの番組, 2. テレビの広告, 3. インターネット, 4. 雑誌の記事, 5. 雑誌の広告, 6. 保護者(親など), 7. きょうだい, 8. 友人, 9. 専門家(医師, 歯科医師, 薬剤師など), 10. 学校の先生(担任, 保健室の先生など), 11. その他, の中から当てはまるもの全てを選択してもらった.

7) 医薬品の入手容易性に関する認知

中・高校生の医薬品の入手容易性に関する認知については、先行研究の知見によれば、中・高校生では保護者, 友人, 家の救急箱, 薬局・薬店で医薬品を入手している場合が多いことから、それらの入手先から医薬品を得ることがどのくらい難しいかをたずね、4件法(1. とても難しい, 2. 少し難しい, 3. やや簡単, 4. とても簡単)で回答を求めた.

2-4. 分析方法

性差および学年差の有意性の検定には、 χ^2 検定を用いた.

解析に際しては、統計プログラムパッケージ SPSS14.0J for Windows を使用し、統計上の有意水準は5%とした.

3. 調査研究成果

1) 過去1か月間の医薬品使用経験

図1には、過去1か月間の医薬品使用経験者の割合を示した.

過去1か月間の医薬品使用経験についてみると、「医薬品はのんでいない」と回答した者の割合は中学生では男子 44.5%, 女子 38.4%, 高校生では男子 42.5%, 女子 34.2% であり、いずれの場合も6割近くの者が過去1か月間に何らかの症状で服薬していた.

症状別にみると、いずれの学年においても男女ともに「かぜ」で医薬品を使用した者が最も多かった。次いで中学男子、高校男子では「腹痛」、中学女子では「頭痛」と「腹痛」、高校女子では「生理痛」が多かった。

性差に関しては、「のんでいない」において有意差が認められ、高校女子の割合が高校男子より低かった ($\chi^2=9.586$, $df=1$, $p=.002$)。

学年差に関しては、「生理痛」において有意差が認められ、高校女子の割合が中学女子より高かった ($\chi^2=.034$, $df=1$, $p=.034$)。

2) かぜ薬および痛み止め薬の使用頻度

表2には、ふだんのかぜ薬および痛み止め薬の使用頻度に関する結果を示した。

痛み止め薬の使用頻度において性差が認められ、中学生、高校生いずれの場合においても、女子が男子よりも「1か月に2～3回」、「6か月間に2～3回」と回答した者の割合が有意に高く、「ほとんどのまない」と回答した者の割合が有意に低かった (中学生: $\chi^2=42.685$, $df=5$, $p<.001$, 高校生: $\chi^2=79.956$, $df=5$, $p<.001$)。

かぜ薬の使用頻度については、性差、学年差は認められなかった。

3) 自己判断での医薬品使用経験

表3には自己判断での医薬品使用経験に関する結果を示した。保護者や学校の先生に相談しないで自分で医薬品をのんだ経験のある者の割合は、中学生では男子 30.1%、女子 33.3%、高校生では男子 37.1%、女子 42.2%だった。保護者や学校の先生に相談しないで自分で医薬品を買った経験のある者の割合は、中学生では男子 2.7%、女子 6.3%、高校生では男子 9.1%、女子 10.0%だった。また、友人から医薬品をもらった経験のある者の割合は、中学生では男子 5.9%、女子 23.8%、高校生では男子 8.2%、女子 32.0%だった、友人に医薬品をあげた経験のある者は中学生では男子 4.8%、女子 18.5%、高校生では男子 8.9%、女子 27.4%だった。

性差に関しては、中学生、高校生ともに、友人からももらった経験と友人にあげた経験において、女子の割合が男子より有意に高かった。「友人からももらった経験」中学生: $\chi^2=22.802$, $df=1$, $p<.001$, 高校生: $\chi^2=113.098$, $df=1$, $p<.001$, 「友人にあげた経験」中学生: $\chi^2=16.267$, $df=1$, $p<.001$, 高校生: $\chi^2=74.461$, $df=1$, $p<.001$)

学年差については、男子では自分で買った経験、女子では、自分でのんだ経験、友人からももらった経験、友人にあげた経験において有意差が認められ、いずれの場合も高校生の割合が中学生より有意に高かった。「自分でのんだ経験」女子: $\chi^2=4.995$, $df=1$, $p=.025$, 「自分で買った経験」男子: $\chi^2=8.333$, $df=1$, $p=.004$, 「友人からももらった経験」女子: $\chi^2=4.791$, $df=1$, $p=.029$, 「友人にあげた経験」女子: $\chi^2=6.246$, $df=1$, $p=.012$)。

4) 医薬品を使用する際の注意事項を守ることに関する行動および態度

図2には医薬品を使用する際の注意事項を守ることに関する行動および態度に関する結果を示した。

行動については、説明書を読むことでは、高校生において有意な性差が認められ、「いつも読んでいる」、「全く読んでいない」と回答した者の割合は男子が高く、「あまり読んでいない」と回答した者の割合は女子が高かった ($\chi^2=18.483$, $df=3$, $p<.001$). のむ量を守ることにについては、高校生において有意な性差が認められ、女子が男子よりも「いつも守っている」と回答した者の割合が高かった ($\chi^2=13.513$, $df=3$, $p=.004$). のむ時間を守ることに関する行動については、性差、学年差ともに認められなかった。

態度については、説明書を読むこと、のむ時間を守ることのいずれにおいても、高校生において有意な性差が認められ、「とても大切だと思う」と回答した者の割合は男子が女子よりも高かった(「説明書を読むこと」 $\chi^2=9.082$, $df=3$, $p=.028$, 「のむ時間を守ること」 $\chi^2=9.082$, $df=3$, $p=.028$). のむ量を守ることに関する行動については、性差、学年差ともに認められなかった。

5) 医薬品を使用する際の相談相手

図3には、医薬品をのむときの相談相手に関する結果を示した。

医薬品を使用する際の相談相手として、男女ともに回答が最も多かった選択肢は「保護者」(87.7~93.1%)であり、次いで「専門家」(19.2~29.8%)であった。一方、「きょうだい」、「友人」、「学校の先生」を選択した者は0.5~7.6%だった。

性差については、中学生では、「学校の先生」において有意差が認められ、女子の割合が男子よりも有意に高かった ($\chi^2=4.359$, $df=1$, $p=.037$). 高校生では、「保護者」、「友人」と回答した者の割合は女子が男子よりも高く(「保護者」 $\chi^2=5.135$, $df=1$, $p=.023$, 「友人」 $\chi^2=7.921$, $df=1$, $p=.005$), 「専門家」、「学校の先生」では男子の割合が女子よりも有意に高かった(「専門家」 $\chi^2=18.852$, $df=1$, $p<.001$, 「学校の先生」 $\chi^2=4.535$, $df=1$, $p=.033$).

学年差については、女子において有意差が認められ、「学校の先生」と回答した者の割合は中学生が高校生よりも高かった ($\chi^2=20.475$, $df=1$, $p<.001$). 男子では有意差は認められなかった。

6) 医薬品に関して信頼できると思う情報源

表4には、医薬品に関して信頼できると思う情報源についての結果を示した。

回答者率が最も高かったのは「専門家」(70.1~77.0%)と「保護者」(59.2~74.9%)であり、次いで「テレビの番組」(29.2~39.1%), 「インターネット」(14.5~33.0%)が高かった。

性差については、中学生では、「インターネット」は男子の割合が女子よりも ($\chi^2=4.656$, $df=1$, $p=.031$), 「雑誌の記事」, 「保護者」, 「学校の先生」は女子の割合が男子よりも有意に高かった (「雑誌の記事」 $\chi^2=5.739$, $df=1$, $p=.017$, 「保護者」 $\chi^2=5.389$, $df=1$, $p=.020$, 「学校の先生」 $\chi^2=4.432$, $df=1$, $p=.035$). 高校生では、「テレビの番組」, 「インターネット」は男子の割合が女子よりも (「テレビの番組」 $\chi^2=9.407$, $df=1$, $p=.002$, 「インターネット」 $\chi^2=64.380$, $df=1$, $p<.001$), 「保護者」, 「専門家」は女子の割合が男子よりも有意に高かった (「保護者」 $\chi^2=7.569$, $df=1$, $p=.006$, 「専門家」 $\chi^2=5.933$, $df=1$, $p=.015$).

学年差については、女子において有意差が認められ、「雑誌の記事」, 「保護者」, 「きょうだい」, 「友人」と回答した者の割合は、いずれの場合においても中学生が高校生よりも高かった (「雑誌の記事」 $\chi^2=5.156$, $df=1$, $p=.023$, 「保護者」 $\chi^2=4.897$, $df=1$, $p=.027$, 「きょうだい」 $\chi^2=12.511$, $df=1$, $p<.001$, 「友人」 $\chi^2=6.093$, $df=1$, $p=.014$). 男子では有意差は認められなかった.

7) 医薬品の入手容易性に関する認知

図4には、医薬品の入手容易性に関する認知についての結果を示した.

薬局・薬店で医薬品を自分で買うことについては、男子において有意な学年差が認められ、「とても簡単」, 「やや簡単」と回答した者の割合は高校生が中学生よりも高かった ($\chi^2=13.779$, $df=3$, $p=.003$). 保護者から医薬品をもらうことについては、性差および学年差が認められ、中学生, 高校生ともに「とても簡単」と回答した者の割合は女子が男子よりも有意に高かった (中学生: $\chi^2=8.064$, $df=3$, $p=.045$, 高校生: $\chi^2=11.352$, $df=3$, $p=.010$). また、学年差については、男子において、「少し難しい」と回答した者の割合は中学生が、「やや簡単」と回答した者の割合は高校生が高かった ($\chi^2=9.418$, $df=3$, $p=.024$). 友人から医薬品をもらうことにおいても、性差および学年差が認められ、性差については中学生, 高校生ともに「とても簡単」, 「やや簡単」と回答した者の割合は女子が男子よりも高かった (中学生: $\chi^2=8.064$, $df=3$, $p<.001$, 高校生: $\chi^2=65.809$, $df=3$, $p<.001$). また、学年差については、男女ともに「とても簡単」, 「やや簡単」と回答した者の割合は高校生が中学生よりも高かった (男子: $\chi^2=1.548$, $df=3$, $p<.001$, 女子: $\chi^2=11.298$, $df=3$, $p=.010$).

家にある医薬品を自分でのむことについては、性差, 学年差ともに認められなかった.

4. 考察およびまとめ

過去1か月間における医薬品使用経験率について、高校生については有意に女子の割合が男子よりも高く、また、中学生では有意差は認められなかったものの同様の傾向が認められたという結果は、先行研究¹⁾¹³⁻¹⁵⁾の結果と一致していた.

自己判断での医薬品使用経験について、すべての場合において有意差が認められたわ

けではないものの、自分でのんだ、自分で買った、友人からもらった、友人にあげた経験いずれにおいても、高校生の経験率が中学生よりも高かった。また、自分でのんだことのある者の割合は中学生で男女ともに3割を超えていた。このように、自分の判断で医薬品を使用する者が多くなる理由については、発達段階が上がり、自主性が高くなるにしたがって、普段の生活において自分で決定する機会が多くなり、医薬品を使用することについても、自分で判断するようになるからであると考えられている¹⁶⁾。青少年が自己判断で医薬品を使用する際に、適切な知識や指導に基づいて自分で判断をすることと、根拠なく判断をすることは異なることが指摘されており¹⁶⁾、実際に、青少年の中には医薬品に関する知識が十分でない者や、誤った知識をもっている者もいることが問題とされている¹⁷⁾¹⁸⁾したがって、自己判断が行われたプロセスについても検討する必要があると考えられる。

医薬品を使用する際の相談相手として、男女ともに回答が最も多かった選択肢は保護者であったこと、医薬品に関して信頼できると思う情報源についても保護者は専門家に次いで多かったことから、中・高校生の医薬品使用行動には、保護者の行動や態度、知識が大きな影響を及ぼしている可能性を示唆している。しかし、保護者の知識や行動が必ずしも適切であるとは限らないという指摘もあることから¹⁹⁾、中学生の適切な医薬品使用行動を促すためには、保護者の医薬品使用に関する行動や態度、知識についても今後は検討する必要があると考えられる。

医薬品を友人からもらった、あげた経験のある者の割合は、中学生高校生の別を問わず女子の割合が有意に高かった。また、医薬品を使用する際の相談相手として友人を挙げた者は、高校生において女子の割合が有意に高く、有意差は認められなかったものの中学生においても同様の傾向が認められていた。さらに、友人から医薬品をもらうことにおいても、中学生、高校生ともに「とても簡単」、「やや簡単」と回答した者の割合は女子が男子よりも高かった。これらの結果を考慮すると、女子は男子よりも、医薬品の入手先あるいは情報源として友人の果たす役割は大きく、友人から受ける影響がより大きいものと推察される。

注意事項を守ることに関する行動について、3つの注意事項において、好ましい回答をした者の割合が最も高かったのは、のむ量を守ることにについてであり、割合が最も低かったのは、説明書を読むことにについてであった。また、態度については、3項目いずれにおいても好ましい回答をした者が比較的多かったが、好ましい回答をした者の割合が最も高かったのは、行動の場合と同様にのむ量を守ることにについてであった。説明書を読むことと、決められた時間を守ることにについては、態度については好ましい回答をしている者が多かったものの、実際の行動では守っていない者が比較的多かったことから、好ましい態度をもっているにもかかわらず、実際には好ましい行動をとっていない者が多いことがうかがえる。

医薬品に関して信頼できると思う情報源について、中学生と高校生ともに有意差が認

められたわけではないものの、テレビの番組、インターネットといったメディア情報を挙げた者の割合は男子が、保護者、専門家といった身近な人を挙げた者の割合は女子が高かった。

5. 調査研究発表

本研究の結果は、「第 59 回日本学校保健学会」で口頭発表するとともに、学術誌「学校保健研究」に論文として投稿する予定である。

6. 参考文献

- 1) Hansen EH, Holstein BE, Due P et al. : International survey of self-reported medicine use among adolescents. *The Annals of Pharmacotherapy* 37 : 361-366, 2003
- 2) 緒方郁子 : 高校生におけるセルフメディケーションに対する認識度に関する調査. 平成 19 年度一般用医薬品セルフメディケーション振興財団調査研究・啓発事業等報告書. 2008
- 3) 堺千紘, 川畑徹朗, 宋昇勲ほか : 中学生の医薬品使用行動の実態とその関連要因—予備的質問紙調査の結果より—. *学校保健研究* 54 卷 3 号掲載予定
- 4) Chambers CT, Reid GJ, McGrath PJ et al. : Self-administration of over-the-counter medication for pain among adolescents. *Archives of Pediatrics & Adolescent Medicine* 151 : 449-455, 1997
- 5) Champbell MA, McGrath PJ : Use of medication by adolescents for the management of menstrual discomfort. *Archives of Pediatrics & Adolescent Medicine* 151 : 905-913, 1997
- 6) 文部科学省 : 中学校学習指導要領解説—保健体育編. 東山書房, 京都, 2008
- 7) 文部科学省 : 高等学校学習指導要領解説—保健体育編. 東山書房, 京都, 2009
- 8) 文部省 : 中学校学習指導要領解説—保健体育編. 東山書房, 京都, 1999
- 9) 高石昌弘, 加賀谷瀬彦, 鈴木庄亮ほか : 医薬品と健康. 現代保健体育改訂版, 24-25. 大修館書店, 東京, 2010
- 10) 藤原喜悦, 大成浄志, 北川薫ほか : 医薬品と健康. 高等学校改訂版保健体育, 26-27. 第一学習社, 広島, 2010
- 11) (財) 日本学校保健会 : 薬の正しい使い方—中学生用. Available at http://www.gakkohoken.jp/book/pdf/20medicine_c.pdf. Accessed April 10, 2012
- 12) (財) 日本学校保健会 : 医薬品と健康—高校生用. Available at http://www.hokenkai.or.jp/iyakuhin/21medicine_d.pdf. Accessed April 10, 2012
- 13) Andersen A, Holstein BE, Hansen EH : Is medicine use in adolescence risk behavior?

Cross-sectional survey of school-aged children from 11 to 15. *Journal of Adolescent Health* 39 : 362-366, 2006

- 14) Due P, Hansen EH, Merlo J et al. : Is victimization from bullying associated with medicine use among adolescents? A nationally representative cross-sectional survey in Denmark. *Pediatrics* 120 : 110-117, 2007
- 15) de Moraes A, Delaporte T, Molena-Fernandes C et al. : Factors associated with medicine use and self medication are different in adolescents. *Clinics* 66 : 1149-1155, 2011
- 16) Chambers CT, Reid GJ, McGrath PJ et al. : Self-administration of over-the-counter medication for pain among adolescents. *Archives of Pediatrics & Adolescent Medicine* 151 : 449-455, 1997
- 17) Huott MA, Storrow AB : A survey of adolescents' knowledge regarding toxicity of over-the-counter medications. *Academic Emergency Medicine* 4 : 214-217, 1997
- 18) Gilbertson RJ, Harris E, Pandey SK et al. : Paracetamol use, availability, and knowledge of toxicity among British and American adolescents. *Archives of Disease in Childhood* 75 : 194-198, 1996
- 19) Allotey P, Reidpath DD, Elisha D : "Social medication" and the control of children : A qualitative study of over-the-counter medication among Australian children. *Pediatrics* 114 : 378-383, 2004

図表

※図表中の記号は以下のことを示す

性差 ** : $p < 0.01$ * : $p < 0.05$

学年差 ## : $p < 0.01$ # : $p < 0.05$

図 1. 過去 1 か月間の医薬品使用経験（複数回答）（%）

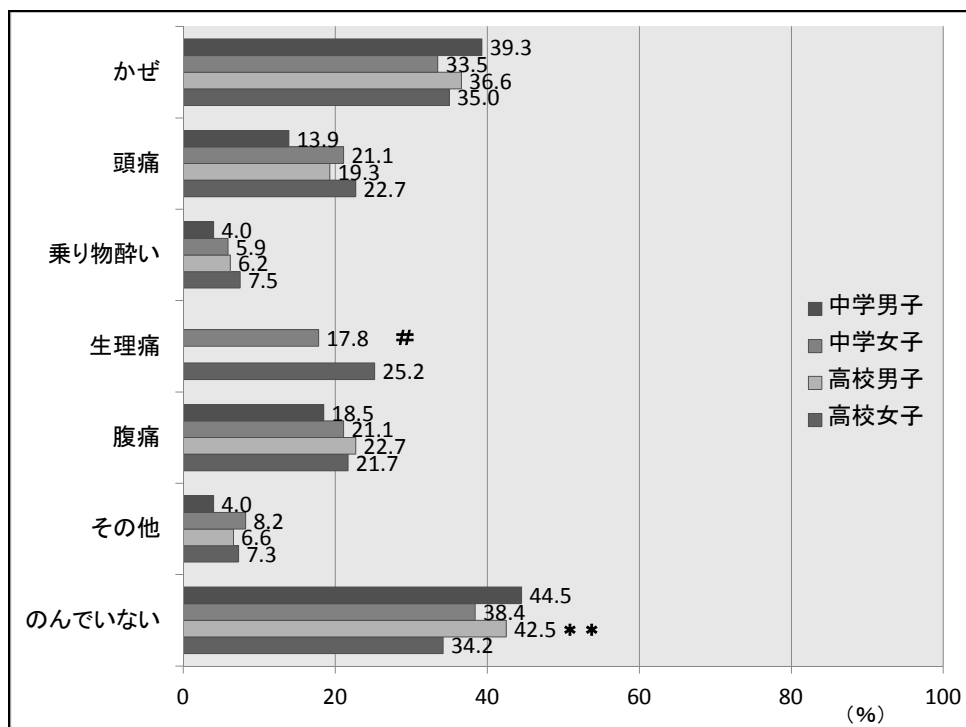
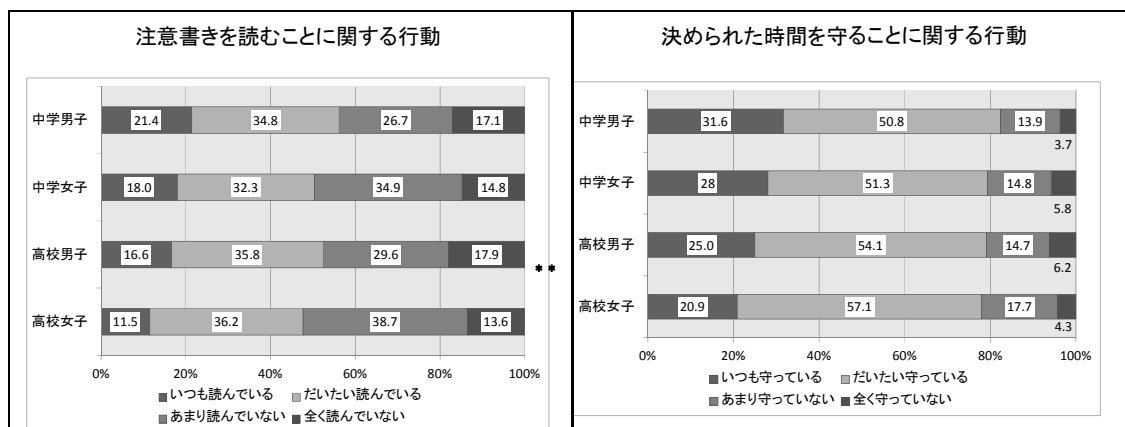


図 2. 医薬品を使用する際の注意事項を守ることに関する行動および態度（%）



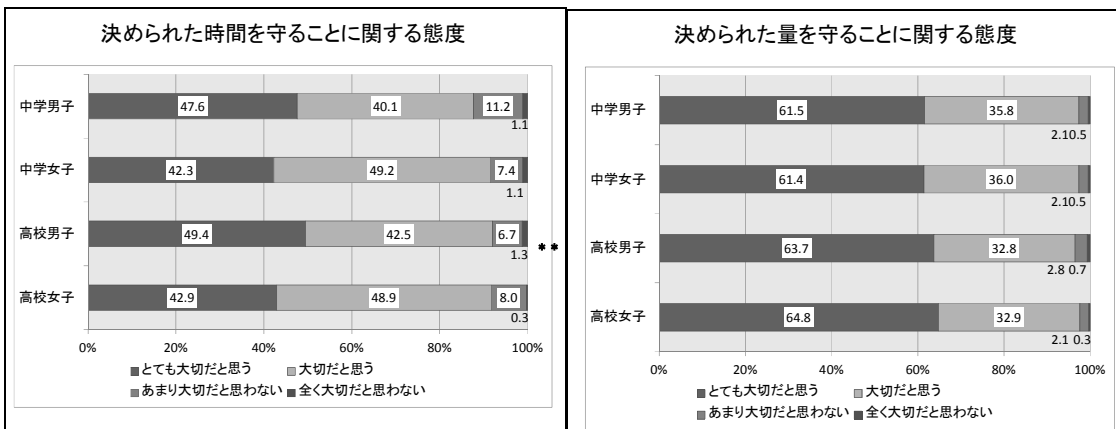
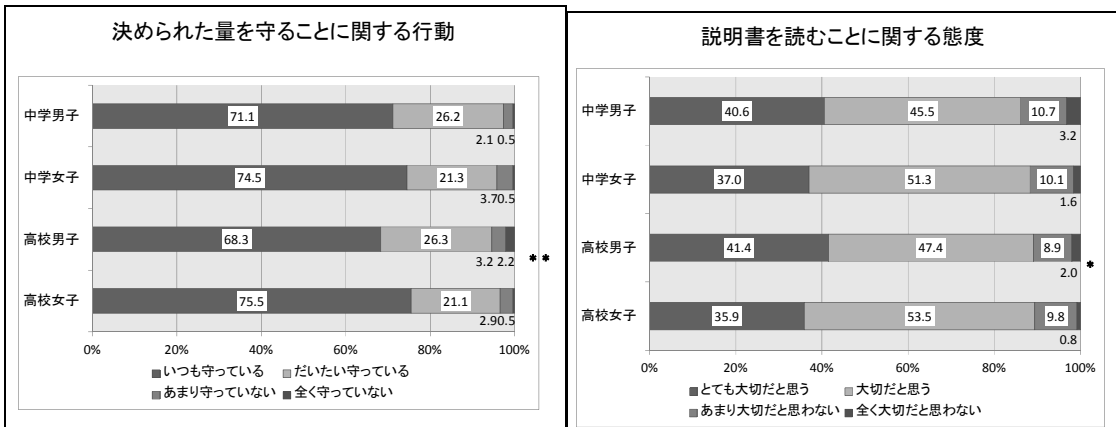


図3. 医薬品を使用する際の相談相手（複数回答）（%）

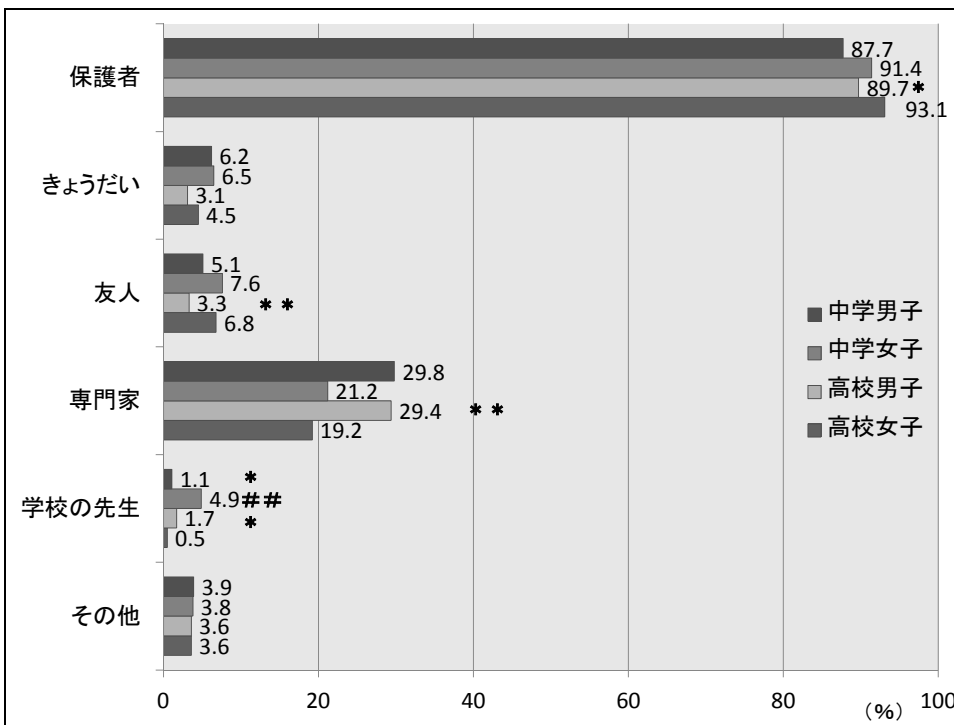


図 4. 医薬品の入手容易性に関する認知 (%)

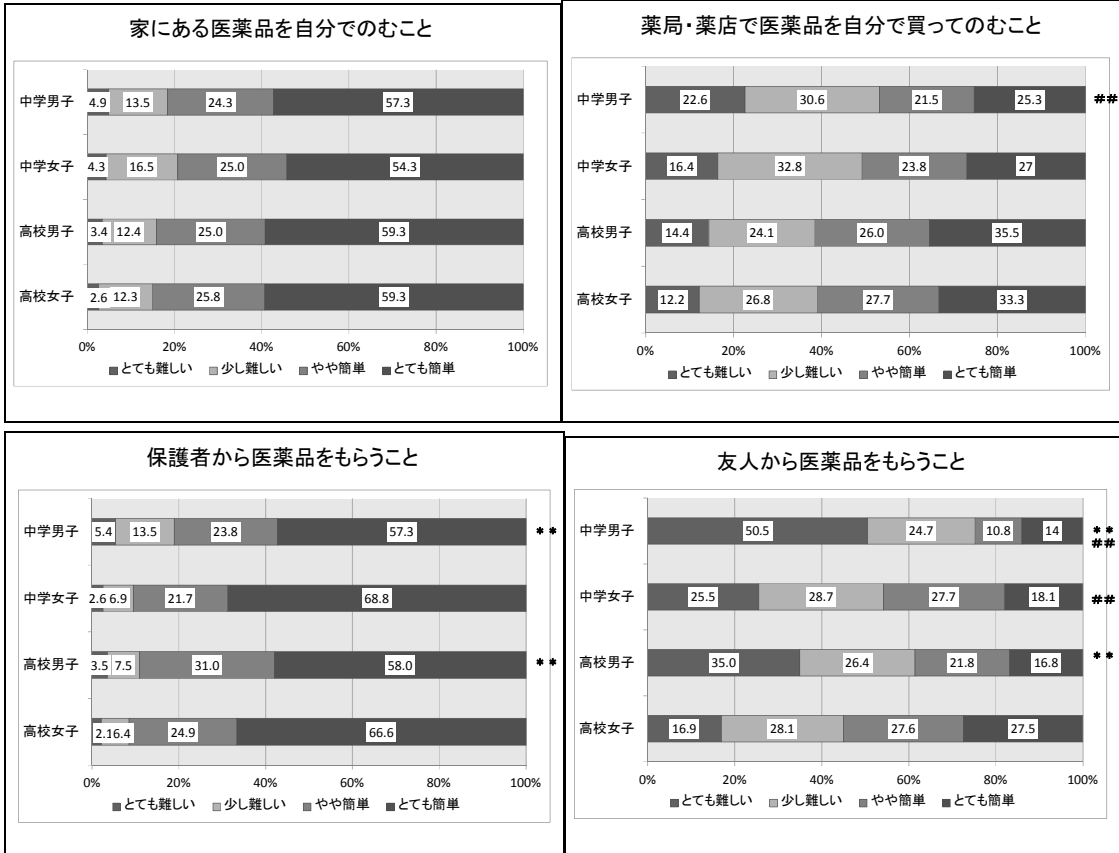


表 1. 調査対象（名）

	クラス数	在籍者数	欠席者数	無効回答数	有効回答数
A 中学校	4	133	13	0	120
B 中学校	2	79	4	1	74
C 中学校	2	52	0	0	52
D 中学校	1	46	0	0	46
E 中学校	1	35	0	1	34
F 中学校(茨城県)	2	53	3	0	50
	12	398	20	2	376
	クラス数	在籍者数	欠席者数	無効回答数	有効回答数
A 高等学校	9	359	8	2	351
B 高等学校	6	240	6	1	233
C 高等学校	6	239	9	1	230
D 高等学校	1	30	0	1	30
E 農業高等学校	3	111	11	0	100
F 商業高等学校	6	240	3	0	237
G 実業高等学校	5	197	5	0	192
	36	1416	42	5	1369

表 2. かぜ薬および痛み止め薬の使用頻度（％）

かぜ薬	中学男子	中学女子	高校男子	高校女子
ほとんど毎日	3.2	4.3	4.2	2.6
1週間に1回以上	7.5	5.3	4.4	2.2
1か月間に2～3回	10.8	10.1	10.4	12.3
6か月間に2～3回	17.7	22.3	18.8	21.4
1年に2～3回	21.5	16	20.3	22.6
ほとんどのまない	39.2	42	41.8	39
痛み止め薬	中学男子	中学女子	高校男子	高校女子
ほとんど毎日	0	1.6	1.4	1.3
1週間に1回以上	3.2	4.3	2.9	3.3
1か月間に2～3回	4.9	19.1	8.4	22.2
6か月間に2～3回	6.5	19.1	7.4	13.7
1年に2～3回	7.6	7.4	10.3	11.9
ほとんどのまない	77.8	48.9	69.6	47.6
	**		**	

表 3. 自己判断での医薬品使用経験 (%)

	中学男子	中学女子	高校男子	高校女子	学年差
自分でのんだ	30.1	33.3	37.1	42.2	女子#
自分で買った	2.7	6.3	9.1	10.0	男子##
友人からもらった	5.9	23.8 **	8.2	32.0 **	
友人にあげた	4.8	18.5 **	8.9	27.4 **	

表 4. 医薬品に関して信頼できると思う情報源 (複数回答) (%)

	中学男子	中学女子	高校男子	高校女子	学年差
テレビの番組	39.1	34.2	37.1	29.2 **	
テレビの広告	16.8	13.9	17.1	13.4	
インターネット	27.7	18.7 *	33.0	14.5 **	
雑誌の記事	7.6	15.5 *	11.2	9.7	女子#
雑誌の広告	7.6	5.5	6.1	4.7	
保護者	63.6	74.9 *	59.2	66.4 **	女子#
きょうだい	9.8	16.6	9.5	8.0	女子##
友人	14.7	19.9	14.2	12.8	女子#
専門家	70.1	77.0	70.9	76.8 *	
学校の先生	20.1	29.4 *	23.7	22.6	
その他	1.6	0.5	2.2	1.7	